

2018. 6. 28

(1) 若者の再出発のサポート 相談 及び 学習支援

★は新規・見直しがあったもの

- ・進路変更について、選択肢の提示、学習方法のアドバイス
- ・高校卒業認定試験に向けて学習支援、
- ・高校転学試験および、編入学試験に向けての制度の説明、学習支援、手続き支援
- ・高校再受験へのアドバイス、学習支援
- ・チャレンジスクール受験のための面接・作文指導
- ・高校等入学後のアフターケア、学習支援

太字は今年度の重点と思われるもの

○調布学園での学習サポート

①小学6年生サポート (月1回 9時15分~10時半) ★

→4/21・5/13・6/30・7/7・8/18・9/15・10/20・11/10・12/8・1/19・2/23・3/2

②中高生自習室でのサポート (第3水曜日 19時~21時) ←曜日変更

③個別サポート (必要に応じて)

○二葉学園での学習サポート (学園から要請があった時に行う)・卒園生支援

(2) 相談活動

- ・メールによる相談
- ・相談日の実施 (年2回) 原則: 福祉センター (6月23日 (土)・1月12日 (土) 14時~16時)

(3) 学習支援ボランティアのバックアップ

- ・学生ボランティアメンバーへの支援

①交通費 (1回 1000円)

②慈恵園での学生ボランティアへの交通費等の支援。参加メンバーには報告会での報告をお願いしている。

③その他、学生ボランティアから要望があった活動、学習支援に必要である活動については活動費を支援する。

★(4) 学習支援に関する研修の機会の保障・・学習支援ボランティア講座の開設

①2018年度より以下のように講座をスタートさせる

名称: 学習支援ボランティア講座

回数: 全7回 (10月2回・11月2回・12月1回・1月2回)

費用: 各回300円 7回通しての申し込み2000円

規模: 第1回と第7回は100人 その他の回50人

②目的 1) 学習支援に関心のある大人との出会い→今後ボランティアに参加するメンバーを増やす

- ・ひとり親家庭の親への学習支援が新規事業として始まり、大人のボランティア募集が必須。
- ・支えるネットの学習支援を継続・充実させるために

2) 学習支援ボランティアに参加している学生に研修の機会を保障する

- ・現在の支援に活かす+将来的に学習支援を担う力をつけてほしい

3) 支えるネットのメンバー一人一人がより充実した支援のために学ぶ

③対象 ①現在、学習支援ボランティアをしているが、さらに学びたい方

②今後学習支援ボランティアをしたいと考えている方

③教育・福祉の現場で若者や子どもたちと関わっている方

④「子どもの貧困」について正しく理解したい方

④内容・日程の具体案（詳細は募集要項参照）

○今回についてはすべて土曜日の14時～16時とする。

○会場は福祉センター・教育センターを予定。第1回と第7回は大きめの会場（100名定員）

第1回 10月6日（土）子どもの貧困とひとり親の現状（赤石さん）福祉センター201～203

第2回 10月27日（土）「貧困の連鎖」と学習支援の役割・学習支援で大切にしたいこと（西牧さん）

第3回 11月10日（土）子どもたちの理解のために①（富永さん）（石井さん）

子どもたちの生き立ち・家庭環境・家庭の支援

第4回 11月24日（土）子どもたちの理解のために②（山中さん）（進藤さん）

子どもたちの特性（発達障害など）の理解・特性に応じた指導法

第5回 12月15日（土）学習支援実践にあたって「子どもたちはどこでつまずくのか」①

第6回 1月19日（土）学習支援実践にあたって「子どもたちはどこでつまずくのか」②

*第5回、6回は「数学」「英語」を中心に1回ずつ行う。

子どもたちのつまずき、教え方の注意点など、参加者（学生を含む）との実践や悩みの交流、みんなで話し合い考え合う時間などを大事にする。（会場・時間配分の工夫）

第7回 1月26日（土）まとめ 子どもの貧困と私たちにできること（湯澤さん）

⑤参加者の募集方法

○募集要項を作成（8月中に完成）、目的・内容・申し込み方法を案内する。

ホームページとリンクしてフェイスブックでも告知・募集し、申し込みを受け付ける。

○申し込み方法

1) 申し込み専用アドレス（管理者：養老）にメールで申し込んでもらう。

申し込みに必要な情報・氏名・メールアドレス（電話番号）・参加希望の講座（日程）
参加理由・調布在住、在勤、在学かどうか

2) 各回の1週間前までを一応の申し込み期限とする。

3) 問い合わせ先は支えるネットのメールアドレスにする。

4) ファックスでの申し込みも可とする（浅野の自宅）

5) 事前申し込みなしでも、参加は可能。

6) 参加費は当日会場で払ってもらう。

○募集要項を ①社協においてもらう。（西牧）→CSWにもつないでいただく。

②ここあの学生に配布する。（西牧）

③支えるネットのメンバーが手渡す。

④「調布市フェイスブック交流会」にて発信する。（養老）

⑤「福祉の窓」9月号に掲載（西牧）

⑥「市報」9月5日号に掲載（大町）

⑦「なくそう子どもの貧困全国ネット」に発信する。（西牧）

⑧児童養護施設に配布する。（調布学園・二葉学園）

⑨学校地域支援コーディネーターに手渡す。五中（西牧）八中（大町）他

⑩学校の先生へ配布

⑥後援名義使用許可申請

調布市教育委員会（大町）

調布市（西牧）

⑦助成金事業とするか（市の教育部の方からのアイデア）→可能であれば助成金事業にする。

★(5) サポート基金の活用

- ①「貸付」を基本とする←返済の仕方を学ぶこと、「返済した」という自信が本人の力になる。
- ②若者にとって必要が生じた時にタイミングを逃さず柔軟に支援できることを特徴とする。
→高卒認定試験・入学準備・転学準備などが今後も予想される
- ③上限 10万 原則 5 年で返済とする
・返済方法は直接会っての返済が支援になる若者、振り込みで大丈夫な若者とここに対応。
- ④「調布市内の若者」を原則とするが
学習ボランティア等での関わりが今までなかった若者にも貸付できるようにする。
・今までつながれてない若者と貸し付けをきっかけに支援を始めることができる。
・1) リーフレット(中3向け)(若者向け)に転学などに関わる費用の貸付制度について掲載
2) 社協に知っていただき、必要な若者を紹介してもらう。
- ⑤若者への貸付以外の活用
1) 学習支援ボランティア講座の実施運営費用にあて、広く還元する。
★2) 慈恵園での学習支援を研修の意味でも位置づけ、費用の支援を手厚くする。(8月9日~11日)
「交通費半額(半額は施設が負担)+ガソリン代(一人当たり500円)+外食代」を支援
3) 若者支援・保護者支援に必要な資料・教材の購入
*返済の際にかかる振込手数料は支えるネットで負担する。

- (6) 例会開催 偶数月の最終木曜日 18時半より
例会準備会開催 奇数月の最終金曜日 18時半より

- (7) 学習の機会の設定
- ・例会や相談日の中で必要な情報を交換、積極的に学び合う場を設定する。
 - ・希望者には学習支援に関わる研修に参加する機会を保障する。

- (8) 資金の調達
- ・桜まつりでの菓子・コーヒー販売(4月2日実施済み)
 - ・サポーターズパーティの開催(3月)

- (9) 調布市子ども若者事業『ここあ』との連携と協力

- ①「ここあ」の活動に協力してゆく
- ②「ここあ」でカバーできない部分に協力してゆく

- (10) 宣伝活動

- ・ホームページの拡充

★フェイスブックページの活用

- ・リーフレットの発行
 - ①中学校卒業生向けのもの作成。調布市内の全中学校(公立)に配布
 - ②中学卒業後の若者向けのもの作成。
 - ③一般向けのもの作成。活動内容の紹介・協力者募集
- ・ニュースレターの発行(日頃の活動・エピソードがわかるもの)・寄付いただいた方への報告にも
- ・学習会・講演会への講師派遣
- ・地域イベントなどへの参加(さくらまつり・まち活フェスタなど)

(11) こども食堂（覚證寺）との連携と協力

○資金協力 年間30000円

- ・支えるネットとして取り組みを検討していた内容を覚證寺さんが始めてくださった経緯がある。
- ・覚證寺さんには学習支援・相談活動・サポーターズパーティ等ですっと会場提供いただいている。

(12) ニーズをつなく（イベント）活動

○若者に向けた多様な学びや体験の場の企画

- ・「お金と労働の知識」学習会（手続きの仕方・トラブルの対処法）←弁護士・法を学ぶ学生に協力を求める
- ・女性の人権や性教育の学びとコラボした「お化粧のやり方講座」
- ・留学生との異文化交流
- ・地域の協力者に力を借りながらの華道体験教室 他

○シングルマザーや困っている保護者に向けた相談や交流の場の企画

- ・夜の進路説明会 他

○ネットワークを活かしたニーズをつなく活動

- ・おたすけファッションコーディネート（卒業式の制服をネットワークで調達）
- ・必要な品物 調達コーディネート（養護施設を自立する若者へ）
- ・住まいのコーディネート（空き家情報の提供・安い家賃で必要とする若者に紹介できるか）

★“育てる” 思いで受け入れてくださる『働く場』の開拓と必要な若者につなげる活動 ←今年度の重点

- ・インターンシップのような働き方ができ、お金がもらえるアルバイト
→さがす・生み出す・支援してくれる事業者と若者をつなげる、などみんなで具体策を検討してゆく。

(13) 課題の共有と情報の発信

- ・若者と若者を取り巻く実情について積極的に情報を発信してゆく。
- ・課題と願いを多くの人と共有し、実現できることをふやしてゆく。

★調布市若者サポートステーションと情報を共有する。→8月例会での情報提供を交渉中

(14) 調布子ども・若者支援地域ネットワークへの参加

2018年度役割分担

実際にはもっと多くの方が役割を担ってくださっていますが、対外的にも確認しておいた方がよいものに限って確認します。実際には、学習支援ごと、イベントごとの役割分担で活動は進めてゆきます。★は2018年度から（敬称略）

○代表 大町

○会計 ドウマンジュ （オブザーバー）横山 監査 大町

○学習支援窓口 西牧

○ホームページ担当 藤澤

★フェイスブック担当 養老

○相談メール担当 大町・西牧・川上・進藤・富永・浅野

○基金活用特別委員 大町・西牧・ドウマンジュ・横山・浅野 と申請者

★ボランティア保険担当 村上

○連絡担当 浅野